

盛岡を発掘する

—平成23年度調査速報—



あかやきどき【あかやき土器】

土師器(はじき)と似ているが、須恵器(すえき)の技法で作られた赤色系の土器。ロク口を使って作られ、盛岡市内では九世紀から出土するようになる。



あかやき土器 (細谷地遺跡)

いこう【遺構】

過去の人間が地面に残した不動産的な痕跡。地下に埋没しているものばかりではなく、石垣や寺院などの建物の基礎、古墳の墳丘など地上で観察できるものも含む。

いせき【遺跡】

過去の人間活動の痕跡。遺構や遺物・遺物包含層のある場所、そのどれかが備わっているものを指す。全国にはおよそ四万ヶ所が数えられ、盛岡市内にはおよそ七五〇ヶ所が確認されている。文化財保護法では「埋蔵文化財包蔵地」と呼び、開発の前には発掘調査が義務づけられている。一般的には所在地や字名をもとに遺跡名をつける。遺跡は、人間の歴史を考える上で重要な役割を担う学術資料であるばかりでなく、その地域のオリジナリティを体現する環境の一部である。

いぶつ【遺物】

過去の人間活動の産物。土器や石器など、過去の人間が加工・製作した人工遺物、動物や動植物の遺存体など、人間活動の結果もたらされた自然遺物との二つに分けられる。

おとしあな【落とし穴・陥し穴】

動物を捕獲する目的で作られた罠用の土坑。北海道・東日本を中心に分布し、縄文時代の発見例が多い。落とし穴の開口部は円形や長楕円形で、深さ・形態は多様だが、底に向かって狭い形に狭くなる形が一般的である。また、底に逆杭を立てた跡のあるものもある。

かめ【甕】

弥生時代以降の煮炊や貯蔵に用いられる容器の名称。縄文時代の丈の高い大口の器は深鉢と呼ぶ。

かわらけ【かわらけ】

土師器の系譜に連なる皿・坏形の土器。都市、官衙、城館、寺社などで多く消費され、祭祀、儀式、饗宴における供献、供膳、灯明皿にも使用された。儀式・饗宴でのかわらけは一回性の清浄な器であり、再利用されず廃棄された。こうした儀式・饗宴は、統治者の権威を高め、諸豪族との主従関係を確認するなど、政治的に重要な意味があった。

こほく【琥珀】

松柏科植物の樹脂の化石。硬度は二・五〜五で脆い。色は、黄茶・赤・白・青・緑黒など多彩で約二五〇色あると言われている。古くから研磨して装飾品として用いられた。縄文時代には使用されておりましたが、弥生時代の琥珀製品は少ない。古墳時代では兼玉や勾玉への使用例がみられる。岩手県内では久慈が産地として知られ、奈良盆地周辺の古墳から発見された琥珀は、久慈地方産であることが科学的に解明されている。久慈では、室町時代頃から琥珀の採掘が産業化されはじめ、江戸時代においては盛岡藩の貴重な財源となっていた。

じょうやく【城柵】

古代、律令国家が蝦夷征伐のために、軍事的側面と政治的側面を併せ持つ拠点として造営した施設。文献上では六四七年の淳足柵が最も古く、八一二年に造営された徳丹城を最後に終焉を迎える。盛岡市内では、志波城が陸奥国最北端にして最大の城柵として知られる。



国指定史跡 志波城跡

すえき【須恵器】

窯で千度以上の高温で焼かれた、暗青灰色陶質の土器。古墳時代に朝鮮半島伽耶地方の技術者が渡来し、生産が始まった。ロク口を利用して成形技法と焼成技法に特徴がある。盛岡市内では八世紀以降に出土するようになる。

たてあな【掘立柱居】

地面を掘りくぼめ、上に屋根をかけた半地下式の住居。夏は涼しく、冬は暖かい。東北北部では縄文時代早期から古代まで続き、中世に入っただ後も堅穴建物として、半地下式の建物を利用してはいた。縄文時代には床に炉が、古代には壁にカマドが備え付けられていた。



堅穴住居跡 (台太郎遺跡)

つき【坏】

古代のもっとも一般的な食器。碗よりも浅く大型で、皿より深いもの。土師器や須恵器・木製品に多く見られる。時期や地域差で、丸底や平底、ふたの有無、高台の有無などの違いがある。

とうす【刀子】

現代のナイフや小刀にあたる、小型で短い刀。中国殷の時代から使われ始め日本では弥生時代に伝わる。日本では屈曲した鹿角製の柄やそれをつけた木製の青銅製や鉄製・木製の柄をつけたものが使われ、木簡の誤字を削除修正する際に用いた。

はじき【土師器】

弥生土器の流れをくむ、野焼きで約七〇〇〜八〇〇度の温度で焼かれた軟質の土器。素焼きで、赤・褐色系の色調。古墳・平安時代のもを指し、中世以降の同系統の土器は「かわらけ」などと呼び区別することが多い。

ふかばち【深鉢】

口縁部が大きく開いた鉢形の土器。縄文土器に對して使われる用語。底部に炎による変色が見られ、内外面に煤や炭化物の付着が多いため、おもに食物の煮炊用に使用されたことがわかる。



国指定重要文化財 繫遺跡出土深鉢形土器

ほったてばしらたてもの【掘立柱建物】

地面に穴を掘り、そこに下端部を埋め込んで立てた柱で構成される建物。縄文時代から近世まで存続する。柱を埋めるために掘った穴を「掘り方」という。

ぼうすいしゃ【紡錘車】

繊維を撚って糸とする際に使用する錘。紡錘車の中心に穿った孔に棒を通したものが紡錘であり、その棒に繊維をつけコマのように回転させながら撚っていく。

みみざら【耳皿】

九世紀頃に登場した供膳具の一種で、皿の縁を対称に内側に折り曲げて耳をつけた土器。現在でも、箸置きとして神事に用いられる。



耳皿 (薬師社脇遺跡)

ろ【炉】

火を焚いた場所。一定の場所で火を焚き続けると、熱で地面が変色する。石で囲んだ石囲炉、土器を埋め込んだ埋焼炉、住居の床面で火を焚いた地床炉など、形態は多種多様である。調理、暖房、照明の機能をはたした。

平成24年2月7日(火)~5月20日(日)

盛岡市 遺跡の学び館

〒020-0866 盛岡市本宮字荒屋13-1
TEL 019-635-6600 FAX 019-635-6605



◆平成23年度調査成果報告会◆

台太郎遺跡・細谷地遺跡・

里館遺跡・史跡 志波城跡 (予定)

■日時 平成24年3月4日(日) 13:30~15:00

■会場 盛岡市遺跡の学び館 研修室(定員80名)

※入場無料、直接会場へどうぞ。



台太郎遺跡 (だいたろういせき)

第73・74次調査 (向中野)

これまでの調査では、奈良～平安時代の集落跡を中心として、中世の堀を伴う居館跡や墓域が確認されています。

一第73次調査一

今回の調査では、平安時代の竪穴住居跡7棟、竪穴跡6棟、近世の掘立柱建物跡1棟、土坑22基、溝跡6条を確認しました。竪穴住居跡7棟のうち3棟は、一辺が7～8mと規模が大きく、平安時代の住居では少ない事例です。また一般集落ではあまり出土しない「耳皿」と呼ばれる供膳具の一種(箸置き)も発見されています。

一第74次調査一

今回の調査では、奈良時代の竪穴住居跡4棟、平安時代の竪穴住居跡3棟、土坑16基、古代末から中世と考えられる堀跡2条、中世の堀跡1条、溝跡6条を確認しています。うち土坑3基は奈良時代の墓塚で、勾玉や刀子、土師器が副葬されていました。遺跡の南東部で確認した堀は、南北約70m・東西約90mと、南北約50m・東西約80mの2つの範囲を方形に区画している堀の一部と考えられます。



第73次調査区 北側全景



第74次調査区 全景

細谷地遺跡 (ほそやちいせき)

第28・29次調査 (向中野)

これまでの調査では、奈良～平安時代の集落跡がみつかっています。

—第28次Ⅰ区・第29次調査—

今回の調査では、平安時代の竪穴住居跡3棟、土坑3基、溝跡3条を確認しています。遺跡の南側を東西に横断する古代の溝を発見しており、住居域の南端を示すものと考えられます。

—第28次Ⅱ区調査—

今回の調査では、平安時代の竪穴住居跡1棟、土坑6基、溝跡1条、柱列跡1基を確認しています。



第28次調査Ⅰ区 全景

里館遺跡 (さたていせき)

第53次調査 (天昌寺町)

これまでの調査では、中世の建物跡や堀跡が確認されています。

今回の調査では、古代の竪穴住居跡1棟、中世の竪穴建物跡21棟、土坑52基、溝跡3条、柱穴1052口を確認しました。調査区の中央からは、集中して柱穴が発見されていますが、全ての掘立柱建物跡を特定するには至っていません。竪穴建物跡と柱穴からは、15～16世紀の陶磁器や「永楽通宝」、近世の「寛永通宝」や無銘銭などの古銭、鉄製品が出土しました。



第53次調査 全景

史跡 志波城跡 (しわじょうあと)

第105・106次調査 (下太田)

—第105次調査—

今回の調査では、東北電力の鉄塔建設予定地の遺構の有無を確認する調査をおこないました。その結果、政庁北東部から300m付近より竪穴住居跡7棟、溝跡2条、柱穴2口、土坑4基を確認しました。竪穴住居跡からは、志波城期と考えられる須恵器坏が2点出土しています。今回の結果により、住居域がさらに内側に広がる事が確認できました。

—第106次調査—

史跡整備事業として志波城外郭東辺築地塀の東側の調査をおこないました。今回の調査では、外郭東辺築地外溝跡を確認しています。



志波城跡第105次調査
遺構検出状況

繫V遺跡 (つなぎごいせき)

第36次調査 (繫)

平成21年度に発掘調査をおこなった繫V遺跡第36次調査の整理作業が現在進められています。この調査では、縄文時代中期の遺構が主に確認されています。

今回の整理作業では、縄文時代中期初頭から中期末葉の土器が数多く復元されています。



繫V遺跡 出土遺物

盛岡市内の主な遺跡と時代

時代	年代	西暦	主な出来事	市内の主な遺跡	今年度調査遺跡	
原始	旧石器時代		大陸と地続き、大型の動物が生息する	小石川遺跡（玉山区藪川）		
	縄文時代	草創期	12,000年前	土器の使用がはじまる	大新町遺跡（大新町）	
		早期	8,000年前	定住化がすすむ	館坂遺跡（前九年） 庄ヶ畑A遺跡（上米内） 大新町遺跡（大新町） 日戸遺跡（玉山区日戸） 新茶屋遺跡（山岸） 上八木田遺跡（新庄） 畑遺跡（上米内）	
		前期		6,000年前	気候の温暖化、海面の上昇 漁労の発達、各地に大型住居が出現	【県史跡】大館町遺跡（大新町） 柿ノ木平遺跡（浅岸） 繫V遺跡（繫） 上米内遺跡（上米内） 川目C遺跡（川目） 湯沢遺跡（湯沢） 大葛遺跡（浅岸） 落合遺跡（下米内） 萩内遺跡（繫）
		中期	5,000年前	各地に大規模な縄文集落が発達	上平遺跡（猪去） 手代森遺跡（手代森） 川目A遺跡（川目） 宇登遺跡（玉山区川又）	
		後期	4,000年前	気候の寒冷化 ストーンサークルがつくられる		
		晩期	3,000年前	東日本で亀ヶ岡文化が栄える		
弥生・古墳	弥生時代	2,000年前	紀元前 57 倭の奴国王が後漢の光武帝より印綬を賜る 239 邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを出す	手代森遺跡（手代森） 繫VI遺跡（繫） 一本松遺跡（下米内）		
	古墳時代	1,700年前	ヤマト政権、統一進む	永福寺山遺跡（下米内） 薬師社脇遺跡（浅岸）		
	飛鳥時代	1,400年前	593 聖徳太子が摂政となる 645 大化の改新	上田蝦夷森古墳群（黒石野） 竹鼻遺跡（上鹿妻） 太田蝦夷森古墳群（上太田） 百目木遺跡（三本柳） 台太郎遺跡（向中野） 釜崎遺跡（玉山区好摩） 西鹿渡遺跡（三本柳） 永井古墳群（玉山区永井） 館・松ノ木遺跡（上太田）	台太郎遺跡（向中野）	
古代	奈良時代	1,300年前	710 平城京に都をうつす 724 多賀城が築かれる	【国史跡】志波城跡（下太田） 台太郎遺跡（向中野） 前野遺跡（浅岸） 乙部方八丁遺跡（乙部） 林崎遺跡（下太田） 芋田遺跡（玉山区芋田） 稲荷町遺跡（大館町・稲荷町） 内村遺跡（下飯岡）	【国史跡】志波城跡（下太田） 矢盛遺跡（飯岡新田） 山王山遺跡（山王町）	
	平安時代	1,200年前	794 平安京に都をうつす 胆沢城(802)志波城(803)徳丹城(812)が築かれる 894 遣唐使が停止される			
		1,000年前	1016 藤原道長が摂政となる 1051 前九年の戦い（～1062年） 1083 後三年の戦い（～1087年） 1124 中尊寺金色堂完成 1189 奥州藤原氏滅亡		細谷地遺跡（向中野） 台太郎遺跡（向中野）	
			鎌倉時代	800年前	1192 源頼朝が征夷大将軍となる 文永の役(1274) 弘安の役(1281) 1336 南北朝に分かれ、対立する 1338 足利尊氏が征夷大将軍となる 1404 足利義満、明との貿易を開始する 1467 応仁の乱	大宮遺跡（本宮） 堰根遺跡（浅岸） 台太郎遺跡（向中野） 落合遺跡（下米内） 里館遺跡（天昌寺町） 安倍館遺跡（安倍館町） 日戸館遺跡（玉山区日戸） 下田館遺跡（玉山区下田） 玉山館遺跡（玉山区玉山） 【国史跡】盛岡城跡（内丸） 一里塚 南部家墓所（北山） 山蔭窯（茶畑）・花古窯（新庄）
室町時代	600年前					
中世・近世	安土桃山時代		1588 南部信直が志和郡を攻略する 1590 豊臣秀吉が天下を統一する 1603 徳川家康が征夷大将軍となる 1641 鎖国の体制が固まる			
	江戸時代	400年前				
近代	明治時代	150年前	1853 アメリカの使節ペリーが浦賀に来る			
		1867 大政奉還 王政復古の号令				